

Title	阪大法学 54巻 総目次
Author(s)	
Citation	阪大法学. 2005, 54(6)
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/54877
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

阪大法学 第五四卷 総目次 (一〜六号)

論 說

日本の非核政策と核武装論……………	黒澤 満	一	一
フランスの刑事和解(一)……………	島岡まな	一	五三 五三
イタリア刑事手続における犯罪「被害者」の地位について(三・完)……………	松田岳士	一	八七 八七
コンシューマーズムの倫理と消費社会の精神？……………	河野良継	一	一一九 一一九
消費社会の法社会学 序論……………	河野良継	一	一一九 一一九
日本における監査役制度の定着過程について……………	國井法夫	一	一六五 一六五
—— 明治一五年から明治二三年までの監査役制度……………	國井法夫	一	一六五 一六五
経営監督システムとしての監査委員会制度の考察……………	李 孝慶	一	一八九 一八九
—— 日米韓の近時の改正を中心に……………	李 孝慶	一	一八九 一八九
同性愛と法理論……………	前田剛志	一	二一九 二一九
—— 「承認」概念を手がかりに……………	前田剛志	一	二一九 二一九

中小企業金融としてのファクタリング取引(上)……………	藤澤尚江	一	二四七	二四七
一部 無効……………	平田健治	二	一	三八五
ハイテク産業における企業結合規制……………	武田邦宣	二	三五	四一九
実業家時代の西原亀三と大陸貿易				
——「日露経済提携」から「日中経済提携」へ……………	森川正則	二	八三	四六七
中小企業金融としてのファクタリング取引(下)……………	藤澤尚江	二	一二七	五一一
「転換」法理についての覚書……………	平田健治	三	一	六四五
フランスの刑事和解(二・完)……………	島岡まな	三	三一	六七五
A D Rの「共通的な制度基盤」整備の問題点				
——裁判外紛争解決の柔軟で多様なあり方をめぐって……………	福井康太	三	五七	七〇一
明治期における刑事事件と未成年者に関する一考察				
——司法省調査部『刑事判決書集成』の分析を通じて……………	田中亜紀子	三	一〇五	七四九
新たな量刑事情の発生と弁論の再開……………	島田良一	三	一三五	七七九
わが国における大臣個別責任に関する一考察				
——憲法六六条三項の連帯責任との関係……………	田中孝和	三	一五九	八〇三
フランス債務法におけるヨーロッパ人権条約の影響				
——条約第八条による契約内容の修正……………	福田健太郎	三	一八九	八三三
憲法と環境基本法……………	松本和彦	四	一	九五七

統一ドイツの平和意識……………	木戸衛一	四	二一	九七七
法的パターナリズムと選好				
—— パターナリスティックな法介入の効率性——……………	瀬戸山晃一	四	四五	一〇〇一
ジャーナリストの概念				
—— ジャーナリストの特権のスタンディングをてがかりとして——……………	前田正義	四	七五	一〇三一
……………	島田良一	四	一〇五	一〇六一
量刑手続と被告人の「対面権」……………	李孝慶	四	一三三	一〇八九
取締役の注意義務と経営判断原則に関する一考察	小野博司	四	一六一	一一一七
—— 日米韓の比較において——……………	松本和彦	五	一	一一七七
明治憲法体制における自由権論の変遷……………	松田岳士	五	二三	一一九九
環境法における予防原則の展開(二)……………	若林翼	五	四九	一二二五
刑事訴訟法三二〇条一項について(上)……………	小寫典明	六	一	一二九一
法と主体の可能性				
—— フェミニズムの主体像を手がかりに(一)——……………	福井康太	六	四七	一三三七
雇用・労働分野の法改正とその将来……………	阪上真千子	六	九三	一三八三
リスク社会の紛争と法				
—— 紛争解決の構造転換をめぐる——……………				
一三世紀前半南イタリアにおける普通法、特有法と勅法……………				

法と主体の可能性

—— フェミニニズムの主体像を手がかりに(二・完)……………若林 翼 六 一一一 一四一一

—— ソフトウェア関連発明の特許保護に関する日中の比較研究……………陳 思勤 六 一四七 一四三七

特別寄稿

ドイツ近世都市ケルンの刑法

—— 特に都市経済の秩序を害する犯罪及び

都市社会の秩序を害する犯罪について……………林 毅 三 二一九 八六三

判例研究

非嫡出子相続差別の合憲性

—— 平成一五年最高裁判所判決を契機として……………合原理映 一 二六七 二六七

翻訳

訪問取引としての不動産金融契約における撤回権

—— ヨーロッパ消費者保護法とドイツ民法の間の

利益衝突……………ブリッタ・ペアーテ・シェーン 一 二九五 二九五

平田健治／訳と解説

インターネットとEU法	ジャック・ラリウー	一	三四一	三四一
日本の情報保護立法	松田 岳士／訳			
——ヨーロッパの厳格主義とアメリカのレッセフェールの間で——				
.....	ベネディクト・ブフナー	二	一五一	五三五
.....	平田 健治／訳			
EUにおける私法の変容				
——EC消費者売買指令のギリシャ法への国内法化——				
.....	ニキタス・ハジミハイ	二	一六七	五五一
.....	松田 岳士／訳			
会社の法的地位に関するECJアプローチの再構成				
——欧州司法裁判所の四つの判決を比較して——				
.....	ベンヤミン・ニックスドルフ	三	二四九	八九三
.....	福井 康太／訳			
ヨーロッパ法域と第三国				
予防原則の国際法・EU法における生成過程および	ニキタス・ハジミハイ	三	二八一	九二五
.....	松田 岳士・長田真里／共訳			
イタリアにおける適用状況について(上)		四	一九一	一一四七
.....	ルチア・ロッシ			
予防原則の国際法・EU法における生成過程および				
イタリアにおける適用状況について(下)		五	七三	一二四九
.....	ルチア・ロッシ			
.....	松田 岳士／訳			
ピアトゥピアと著作権	ジャック・ラリウー	六	一七七	一四六七
.....	松田 岳士／訳			

資料

ベルギー国際私法立法案の紹介(一)	……	長田真里	一	三五七
ベルギー国際私法立法案の紹介(二・完)	……	長田真里	二	三五七
				一七七
				五八一